

# プログラム

---

基調講演 . . . . .

教育講演 . . . . .

シンポジウム . . . . .

ミニシンポジウム . . . . .

特別セッション . . . . .

セッション . . . . .

ポスター発表 . . . . .

## 基調講演

**基調講演 1** 12月8日(木) 9:30～10:30 (第1会場)

**“Modulation of stress axis function in fish is associated with exposure to waste water treatment works (WWTW) effluent and variation in water quality”**

座長：井口 泰泉  
横浜市立大学

演者：Prof. Peter Matthiessen  
Centre for Ecology and Hydrology, Lancaster, United Kingdom

**基調講演 2** 12月8日(木) 16:50～17:50 (第1会場)

**“Mixtures matters EDC-MixRisk: a novel approach for improved decision making o EDCs”**

座長：山崎 邦彦  
環境省環境保健部

演者：Prof. Åke Bergman  
Executive director of Swetox

## 教育講演

**教育講演 1** 12月9日(金) 13:40～14:25 (第1会場)  
「Behavioral toxicology in rodents: useless or needed?」

座 長：遠山 千春  
筑波大学医学医療系・環境生学

演 者：Prof. Hans-Peter Lipp  
University of Zurich / Neurospex GmbH

**教育講演 2** 12月9日(金) 16:00～16:45 (第1会場)  
「ネオニコチノイドの活性発現と選択性の分子機構」

座 長：鯉淵 典之  
群馬大学大学院 医学系研究科 応用生理学分野

演 者：松田 一彦  
近畿大学農学部応用生命化学科

## シンポジウム

シンポジウム 1 12月8日(木) 13:30～15:30 (第1会場)

「内分泌かく乱物質対策の最近の動向と環境省 EXTEND2016：試験法開発と日英共同研究の成果」

座長：井口 泰泉 (横浜市立大学)

川嶋 之雄 (日本エヌ・ユー・エス株式会社)

- － 井口 泰泉・川嶋 之雄 (横浜市立大学 生命ナノサイエンス・JANUS)
- － 山崎 邦彦 (環境省環境保健部)
- － 鑑迫 典久 (国立環境研究所)
- － 井原 賢 (京都大学工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター)
- － 宮川 信一 (和歌山県立医科大学・先端医学研究所)
- － 小林 亨 (静岡県立大学 大学院食品栄養環境科学研究院 環境生命)

シンポジウム 2 12月9日(金) 9:15～11:45 (第1会場)

「日本のダイオキシン・AHR 研究最前線—どこまで実態が解ったか？」

座長：松井 三郎 (京都大学名誉教授)

- － Su-Min Bak (Dept. Life and Nanopharmaceutical Science, Kyung Hee University / Dept. Biology, Kyung Hee University)
- － 寺岡 宏樹 (酪農学園大学獣医学群生体機能学分野)
- － Eun-Young Kim (Dept. Biology and Department of Life and Nanopharmaceutical Science, Kyung Hee University)

座長：岩田 久人 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター)

- － 松田 知成 (京都大学工学研究科)
- － 松田 俊 (京都大学大学院工学研究科 / 富士フイルム株式会社)
- － 掛山 正心 (早稲田大学人間科学学術院 予防医科学 / 行動神経科学研究室 / 早稲田大学環境医科学研究所)

## ミニシンポジウムプログラム

ミニシンポジウム1 12月9日(金) 14:30～16:00(第1会場)

「レギュラトリーサイエンスによる内分泌かく乱化学物質の影響評価― 農薬の生態毒性学的視点からみた EC の Impact Assessment Report ―」

共催：一般社団法人 セタックジャパン

座長：雑賀 修(コンサルタント)

- － 雑賀 修(コンサルタント)
- － 田中 拓(クミアイ化学工業株式会社)
- － 入江 浩大(日産化学工業株式会社)
- － 松本 建(株式会社日曹分析センター)
- － 西村 崇之(石原産業株式会社)
- － 柳沼 慎二(日本農薬株式会社)
- － 萩野 哲(住化テクノサービス株式会社)

ミニシンポジウム2 12月9日(金) 14:30～16:00(第2会場)

「若手の会キックオフシンポジウム - 若手研究者のキャリア・ライフプランのための References-」

座長：宮崎 航(群馬大学大学院医学系研究科器官機能制御学講座)

- － 熊本 隆之(奥羽大学薬学部)
- － 宮川 一志(宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター)
- － 野見山 桂(愛媛大学沿岸環境科学研究センター)
- － 松島 綾美(九州大学大学院理学研究院)

## 特別セッション

**特別セッション1 12月8日(木) 15:30～16:50 (第1会場)**

**「エストロゲン様物質の曝露と影響の包括的把握にむけた最新研究：国立環境研究所の研究紹介」**

座長：曾根 秀子 (国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)  
河原 純子 (国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)

- － 前川 文彦 (国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)
- － 宇田川 理 (国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)
- － 西浜 柚季子 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)
- － 中島 大介 (国立環境研究所)

**特別セッション2 12月8日(木) 15:30～16:30 (第2会場)**

**「千葉出生コホートを通じたエコチル調査への応用探索」**

座長：戸高 恵美子 (千葉大学予防医学センター)  
江口 哲史 (千葉大学予防医学センター)

- － 森 千里 (千葉大学予防医学センター)
- － 江口 哲史 (千葉大学予防医学センター)
- － 鈴木 規道 (千葉大学予防医学センター)
- － 渡邊 応宏 (千葉大学予防医学センター)

# セッションプログラム

セッション1 12月8日(木) 10:30～11:30(第1会場)  
「評価法・生態系への影響」

座長：富永 伸明(有明工業高等専門学校)  
久保 和彦(千鳥橋病院 耳鼻咽喉科)

**SS1-1** **ビスフェノール A の芳香環ハロゲン置換が核内受容体 ERR  $\gamma$  への結合性におよぼす影響の評価**

○袈裟丸 仁志<sup>1</sup>, 金子 周平<sup>1</sup>, 大久保 貴史<sup>2</sup>, 巢山 慶太郎<sup>3</sup>, 劉 暁輝<sup>4</sup>,  
松島 綾美<sup>4</sup>, 野瀬 健<sup>1,3</sup>

<sup>1</sup>九州大学大学院理学府化学専攻 生体分子化学研究室, <sup>2</sup>九州大学理学部化学科,  
<sup>3</sup>九州大学基幹教育院, <sup>4</sup>九州大学大学院理学研究院化学部門構造機能生化学研究室

**SS1-2** **化学物質のリスク評価の現状と課題**

○遠山 千春  
環境健康科学技術国際コンサルティング (HESTIC); 筑波大学医学医療系・環境生物学

**SS1-3** **トリブチルスズおよびペルフルオロオクタンスルホン酸を暴露したメダカ (Oryzias latipes) における obesogen 活性と遺伝子発現変動**

○Chen Kun, 芳野 友美, 岩崎 尚仁, Qiu Xuchun, 田代 康介, 島崎 洋平,  
大嶋 雄治  
九州大学大学院 農学研究院

**SS1-4** **ミジンコの幼若ホルモンかく乱によるオス仔虫誘導に係る Adverse Outcome Pathway の構築**

○渡部 春奈<sup>1</sup>, 阿部 良子<sup>1</sup>, 宮川 一志<sup>2</sup>, 豊田 賢治<sup>3</sup>, 井口 泰泉<sup>4</sup>, 鑪迫 典久<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>国立環境研究所環境リスク研究センター, <sup>2</sup>宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター, <sup>3</sup>バーミンガム大学, <sup>4</sup>横浜市立大学

セッション2 12月8日(木) 10:30～11:45(第2会場)  
「動物への影響・ヒトへの影響・エコチル」

座長：星 信彦(神戸大学大学院)

菅野 純(独立行政法人労働者健康安全機構 日本バイオアッセイ研究センター)

**SS2-1 ネオニコチノイド系農薬曝露によりみられた神経行動学的異常および標的脳領域の探索**

○平野 哲史<sup>1</sup>, 柳井 翔吾<sup>1</sup>, 高田 匡<sup>1</sup>, 米田 直起<sup>1</sup>, 表原 拓也<sup>1</sup>, 久保田 直人<sup>1</sup>, 南 貴一<sup>1</sup>, 万谷 洋平<sup>2</sup>, 横山 俊史<sup>1</sup>, 北川 浩<sup>2</sup>, 星 信彦<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 神戸大学大学院 農学研究科 応用動物学講座 分子形態学分野, <sup>2</sup> 組織生理学分野

**SS2-2 有機リン系、ネオニコチノイド系など農薬の次世代への健康影響**

○木村—黒田 純子<sup>1</sup>, 黒田 洋一郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 公財) 東京都医学総合研究所, 脳発達・神経再生研究部門, <sup>2</sup> 環境脳神経科学情報センター

**SS2-3 日本人妊婦の尿中ネオニコチノイド系農薬濃度**

○飴田 玲伽<sup>1</sup>, 青井 亜里沙<sup>2</sup>, 上山 純<sup>2</sup>, 西浜 柚季子<sup>1</sup>, 吉永 淳<sup>1,3</sup>, 久田 文<sup>4</sup>, 下平 和久<sup>5</sup>, 加藤 進昌<sup>6</sup>

<sup>1</sup> 東京大学新領域創成科学研究科, <sup>2</sup> 名古屋大学医学系研究科, <sup>3</sup> 東洋大学生命科学部, <sup>4</sup> 熊本大学生命科学研究部, <sup>5</sup> 昭和大学医学部産婦人科, <sup>6</sup> 昭和大学医学部精神科

**SS2-4 甲状腺ホルモン受容体機能を活性化する環境化学物質の解析**

○岩崎 俊晴<sup>1</sup>, 原口 瑞樹<sup>2</sup>, 大澤 祥<sup>2</sup>, 宮坂 祐平<sup>2</sup>, 鯉淵 典之<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 神奈川県立保健福祉大学 保険福祉学部 人間総合・専門基礎, <sup>2</sup> 群馬大学大学院 医学系研究科 応用生理学

**SS2-5 ネオニコチノイド系農薬クロチアニジンは胎子型と成獣型、2種類のライディッヒ細胞にそれぞれ異なる影響を及ぼす**

○柳井 翔吾<sup>1</sup>, 平野 哲史<sup>1</sup>, 表原 拓也<sup>1</sup>, 高田 匡<sup>1</sup>, 米田 直起<sup>1</sup>, 岩本 遥<sup>1</sup>, 万谷 洋平<sup>2</sup>, 横山 俊史<sup>1</sup>, 北川 浩<sup>2</sup>, 星 信彦<sup>1</sup>

神戸大学大学院 農学研究科 応用動物学講座, <sup>1</sup> 分子形態学分野, <sup>2</sup> 組織生理学分野



## ポスター発表

ポスター 1 12月8日(木) 12:40～13:40 (ポスター会場)

### PA：分析法・環境動態

#### P1-A-1

#### Distribution of Perfluorinated Compounds in Water Environment of the West Coast of South Korea

Jun Hyo Son<sup>1</sup>, Bum Gun Kwon<sup>2</sup>, Katsuhiko Saido<sup>3</sup>, ○ Seon-Yong Chung<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> Department of Environment and Energy Engineering, College of Engineering, Chonnam National University, <sup>2</sup> Department of Bioenvironmental and Chemical Engineering, college of Engineering, Chosun College of Science and Technology, <sup>3</sup> National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)

#### P1-A-2

#### 日本沿岸に漂着するポリスチレンから発生するスチレンオリゴマー汚染実態

雨宮 恵司<sup>1</sup>, ○小泉 公志郎<sup>1</sup>, 高玉 孝平<sup>2</sup>, 岡田 昌樹<sup>3</sup>, 権 凡根<sup>4</sup>, 鄭 宣龍<sup>4</sup>, 道祖土 勝彦<sup>2,3</sup>, 日秋 俊彦<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 日本大学理工学部, <sup>2</sup> ハワイ大学国際太平洋研究センター, <sup>3</sup> 日本大学生産工学部, <sup>4</sup> 韓国全南大学

#### P1-A-3

#### プラスチック由来の化学物質による日本沿岸と海洋汚染

岡田 昌樹<sup>1</sup>, ○小泉 公志郎<sup>2</sup>, 佐藤 秀人<sup>2</sup>, 山田 和典<sup>1</sup>, D.M.Karl<sup>3</sup>, 道祖土 勝彦<sup>1,3</sup>, 日秋 俊彦<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 日本大学生産工学部, <sup>2</sup> 日本大学理工学部, <sup>3</sup> ハワイ大学国際太平洋研究センター

## **PB：評価法**

### **P1-B-1**

**核内受容体 ERRs は不活性 ER $\alpha$  – AF1 ドメイン欠損体とも協働してビスフェノールA 低用量効果を示す**

○劉 暁輝<sup>1</sup>, 松山 祐昂<sup>1</sup>, 下東 美樹<sup>2</sup>, 下東 康幸<sup>3</sup>

<sup>1</sup>九州大学・院理・化学・構造機能生化学,<sup>2</sup>福岡大学・理・地球圏科学科・生物学分野,  
<sup>3</sup>九州大学・リスクサイエンス プロジェクト研究室

### **P1-B-2**

**ヒト甲状腺ホルモン受容体の活性増強因子として働く構成的に自発活性な核内受容体**

○松山 祐昂<sup>1</sup>, 劉 暁輝<sup>1</sup>, 杉山 真季子<sup>1</sup>, 松島 綾美<sup>1</sup>, 下東 康幸<sup>2</sup>

<sup>1</sup>九州大学・院理・化学・構造機能性化学,<sup>2</sup>九州大学・リスクサイエンス プロジェクト研究室

### **P1-B-3**

**Discovery of Silent Estrogens by DNA Microarray Assay and its Application for Environmental Risk Assessment**

○Yun Zhu<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>Scinet Company, Ltd., <sup>2</sup>Biomedical Research Institute, AIST

## **PC：生態系への影響**

### **P1-C-1**

**Ceilmeter (Lidar) データとエアロゾル粒子数濃度の統計的比較  
- 気候学研究・生態影響評価への活用を見据えて -**

○福島 聡<sup>1</sup>, 張 代洲<sup>1</sup>, 柴田 隆<sup>2</sup>, 片桐 秀一郎<sup>3</sup>, 早坂 忠裕<sup>4</sup>, 有菌 幸司<sup>1</sup>

<sup>1</sup>熊本県立大学 環境共生学部,<sup>2</sup>名古屋大学 大学院環境学研究科,<sup>3</sup>九州大学 応用力学研究所,  
<sup>4</sup>東北大学 大学院理学研究科

## P1-C-2

### 幼若ホルモン短期検出法 (JHSST) を用いた精油成分中の昆虫ホルモン作用の検出

阿部 良子<sup>1</sup>, ○鑓迫 典久<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 国立研究開発法人 国立環境研究所

## P1-C-3

### ペットボトル飲料中農薬の分析と食品安全性評価

○高本 亜希子<sup>1</sup>, 池中 良徳<sup>2</sup>, 吉本 圭佑<sup>3</sup>, 福島 聡<sup>3</sup>, 石塚 真由美<sup>2</sup>, 石橋 康弘<sup>1</sup>, 有菌 幸司<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 熊本県立大学大学院環境共生学研究科, <sup>2</sup> 北海道大学大学院獣医学研究科,

<sup>3</sup> 熊本県立大学環境共生学部

## PD: 動物への影響

### P1-D-1

#### 幼若期 tris(1, 3-dichloroisopropyl)phosphate (TDCIPP) と triphenyl phosphate (TPhP) 曝露は雄ラットの性行動へ濃度依存的な抑制効果をもつ

○服部 達哉<sup>1</sup>, 神島 愛未<sup>2</sup>, 鈴木 剛<sup>3</sup>, 松神 秀徳<sup>3</sup>, 渡辺 元<sup>4</sup>, 近藤 保彦<sup>5</sup>, 滝上 英孝<sup>3</sup>, 川口 真以子<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 明治大学・研究知財戦略機構, <sup>2</sup> 明治大学農学部農学科, <sup>3</sup> 国立環境研究所・資源循環・廃棄物研究センター, <sup>4</sup> 東京農工大学農学部獣医学科, <sup>5</sup> 帝京科学大学生命環境学部

### P1-D-2

#### エストロゲン様化学物質を曝露した両生類初期胚における曝露物質体内蓄積および生殖腺分化について

○高瀬 稔<sup>1</sup>, 進藤 秀彰<sup>2</sup>, 高尾 雄二<sup>2</sup>, 井口 泰泉<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 広島大学両生類研究センター, <sup>2</sup> 長崎大学環境科学部, <sup>3</sup> 横浜市立大学

### P1-D-3

#### 巻貝組織再生における RXR の発現局在

○青木 優香里, 畔柳 知幸, 中野 春男, 梅村 真理子, 高橋 滋, 高橋 勇二

東京薬科大学 生命科学部 環境応用動物学研究室

#### **P1-D-4**

##### **PCBs の in vivo 曝露によるビーグル犬の肝トランスクリプトームとメタボロームへの影響**

○田村 沙弥<sup>1</sup>, 阿草 哲郎<sup>2</sup>, 平野 将司<sup>1</sup>, 江口 哲史<sup>3</sup>, 野見山 桂<sup>1</sup>, 田辺 信介<sup>1</sup>, 金 恩英<sup>4</sup>, 岩田 久人<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター (CMES), <sup>2</sup> 熊本県立大学 環境共生学部, <sup>3</sup> 千葉大学 予防医学センター, <sup>4</sup> Department of Life and Nanopharmaceutical Science and Department of Biology, Kyung Hee University, Korea

#### **P1-D-5**

##### **ビスフェノール A の出生前曝露によるニワトリ新生雛の肝臓トランスクリプトームへの影響**

○伊藤 匠平<sup>1</sup>, 阿草 哲郎<sup>1,2</sup>, 平野 将司<sup>1</sup>, 落合 真理<sup>1</sup>, 金 恩英<sup>3</sup>, 岩田 久人<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 愛媛大学沿岸環境科学研究センター, <sup>2</sup> 熊本県立大学環境共生学部環境資源学科, <sup>3</sup> Department of Biology and Department of life and Nanopharmaceutical Science, Kyung Hee University, Korea

#### **P1-D-6**

##### **Androgen-induced XX sex-reversal in medaka, *Oryzias latipes* and *O. sakaizumii***

○Tohru Kobayashi<sup>1</sup>, Taijun Myosho<sup>1</sup>, Tadashi Sato<sup>2</sup>, Mitsuru Sakaizumi<sup>2</sup>, Satoshi Hamaguchi<sup>2</sup> and Yoshifumi Horie<sup>1,3</sup>

<sup>1</sup> University of Shizuoka, <sup>2</sup> Niigata University, <sup>3</sup> NIES

#### **P1-D-7**

##### **Molecular characterization of aryl hydrocarbon receptor (AHR) in Polar bears (*Ursus maritimus*)**

○Jihee Hwang<sup>1</sup>, Kurunthachalam Kannan<sup>2</sup>, Thomas J. Evans<sup>3</sup>, Hisato Iwata<sup>4</sup>, Eun-Young Kim<sup>1,5</sup>

<sup>1</sup> Department of Life and Nanopharmaceutical Science, Kyung Hee University, Korea, <sup>2</sup> Wadsworth Center, New York State Department of Health, USA, <sup>3</sup> United States Fish and Wildlife Service, USA, <sup>4</sup> Center for Marine Environmental Studies (CMES), Ehime University, <sup>5</sup> Department of Biology, Kyung Hee University, Korea

### **P1-D-8**

#### **妊馬由来 equilin によるヒメダカ繁殖および次世代影響評価と遺伝子発現解析**

○石橋 弘志<sup>1</sup>, 内田 雅也<sup>2</sup>, 富永 伸明<sup>3</sup>, 吉本 圭佑<sup>4</sup>, 山元 涼子<sup>4</sup>, 石橋 康弘<sup>4</sup>, 有菌 幸司<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 愛媛大学大学院農学研究科, <sup>2</sup> 瑞輝科学生物株式会社, <sup>3</sup> 有明工業高等専門学校創造工学科,  
<sup>4</sup> 熊本県立大学環境共生学部

### **P1-D-9**

#### **肝臓における甲状腺ホルモン受容体を介する転写における Arnt の関与**

宮崎 航<sup>1</sup>, 岩崎 俊晴<sup>2</sup>, 鯉淵 典之<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 群馬大学大学院 医学系研究科 応用生理学分, <sup>2</sup> 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・専門基礎

### **P1-D-10**

#### **パルス電界を用いた物質導入法による E2 のメダカ初期胚への発生影響評価**

山口 明美<sup>1</sup>, 富永 伸明<sup>1</sup>, 河野 晋<sup>1</sup>, 石橋 弘志<sup>2</sup>, 飯田 緑<sup>3</sup>, 内田 雅也<sup>4</sup>, 有菌 幸司<sup>5</sup>

<sup>1</sup> 有明工業高専・創造工学, <sup>2</sup> 愛媛大, <sup>3</sup> 九工大, <sup>4</sup> 瑞輝科, <sup>5</sup> 熊本県大・環境共生

ポスター 2 12月9日(金) 12:40～13:40(ポスター会場)

**PA：分析法・環境動態**

**P2-A-1**

**NADPH-チトクロム P450 還元酵素による 2,4,6-トリニトロトルエンの脱ニトロ化代謝反応**

○新開 泰弘、熊谷 嘉人

筑波大学医学医療系環境生物学分野

**P2-A-2**

**環境中化学物質の濃度情報に関するデータベース「ChemTHEATRE」によるモニタリング情報の管理と活用**

○磯部 友彦<sup>1</sup>、仲山 慶<sup>2</sup>、宇野 誠一<sup>3</sup>、大野 暢晃<sup>4</sup>、半藤 逸樹<sup>5</sup>、国末 達也<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 国立環境研究所, <sup>2</sup> 愛媛大学沿岸環境科学研究センター, <sup>3</sup> 鹿児島大学水産学部,  
<sup>4</sup> 兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科, <sup>5</sup> 総合地球環境学研究所

**PB：評価法**

**P2-B-1**

**琵琶湖固有魚の in vitro 精子分化系を用いた化学物質の影響解析**

○高田 達之、小野 友梨子、藤東 貴昭、檜垣 彰吾、小丸 愛香

立命館大学薬学部、細胞工学研究室

**P2-B-2**

**ヒト肥満細胞に対する環境汚染物質の影響**

○久留戸 涼子<sup>1</sup>、山本 蘭<sup>2</sup>、櫻井 正剛<sup>3</sup>、大浦 健<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 常葉大学教育学部, <sup>2</sup> 焼津市立豊田小学校, <sup>3</sup> 静岡県立静岡農業高等学校, <sup>4</sup> 名城大学農学部

## P2-B-3

### In silico/in vitro analyses of the interaction of avian AHR and natural ligands

○ Dong-Hee Koh<sup>1</sup>, Hisato Iwata<sup>3</sup>, Eun-Young Kim<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup> Department of Life and Nanopharmaceutical Science, Kyung Hee University, Korea, <sup>2</sup> Department of Biology, Kyung Hee University, Korea<sup>3</sup>, Center for Marine Environmental Studies (CMES), Ehime University, Japan

## P2-B-4

### エストロゲン活性を増強する ER $\alpha$ -ERR $\alpha$ 協働作用においてレポーターシステムに必須な構造要因

劉 曉輝, 西元 敦也, 松山 祐昂, ○松島 綾美

九州大学大学院理学研究院化学部門構造機能生化学研究室

## PD : 動物への影響

## P2-D-1

### 周産期ダイオキシン曝露が発達期マウスの神経回路構築に及ぼす影響

○木村 栄輝<sup>1,2</sup>, 遠藤 俊裕<sup>1,3</sup>, 吉岡 亘<sup>1,4</sup>, 松吉 智瑛里<sup>1</sup>, 宇治田 和佳<sup>1</sup>, 掛山 正心<sup>1,5</sup>, 遠山 千春<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup> 東京大学医学系・健康環境医工学, <sup>2</sup> 筑波大学医学医療系・環境生物学, <sup>3</sup> 東京大学医学系・神経生化学, <sup>4</sup> 慈恵医科大学環境保健医学, <sup>5</sup> 早稲田大学人間科学学術院・予防医科学 / 応用生理学

## P2-D-2

### Cloning of medaka PPAR gamma and its response to environmental chemicals and pharmaceuticals

○ Shinichi Miyagawa<sup>1</sup>, Saki Tohyama<sup>2,3</sup>, Tohru Kobayashi<sup>3</sup>, Taisen Iguchi<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Institute of Advanced Medicine, Wakayama Medical University, <sup>2</sup> Graduate School of Nanobioscience, Yokohama City University, <sup>3</sup> Graduate School of Nutritional and Environmental Sciences, University of Shizuoka

## P2-D-3

### 下水処理排水に含まれる環境エストロゲンの生物影響評価

○三島 和也<sup>1</sup>, 齊藤 耀<sup>1</sup>, 田島 英佳<sup>2</sup>, 加島 未奈子<sup>2</sup>, 山城 加奈子<sup>2</sup>, 江崎 遥香<sup>1</sup>, 高尾 雄二<sup>1</sup>, 征矢野 清<sup>3</sup>, 長江 真樹<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科, <sup>2</sup> 長崎大学環境科学部, <sup>3</sup> 長崎大学環東シナ海環境資源研究センター

## P2-D-4

### ビスフェノール A の出生前曝露によるラット新生仔の体重・肝重量と肝遺伝子発現への影響

○山本 季美花<sup>1</sup>, Nguyen Thanh Hoa<sup>1</sup>, 阿草 哲郎<sup>2</sup>, 平野 将司<sup>1</sup>, 落合 真理<sup>1</sup>, 金 恩英<sup>3</sup>, 岩田 久人<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 愛媛大学沿岸環境科学研究センター, <sup>2</sup> 熊本県立大学環境共生学部環境資源学科, <sup>3</sup> Department of Life and Nanopharmaceutical Science and Department of Biology, Kyung Hee University, Korea

## P2-D-5

### クロルピリホスの短期低濃度曝露がメダカの逃避行動・情動行動に及ぼす後発的影響

○野道 彩夏, 邱 旭春, 島崎 洋平, 大嶋 雄治

九州大学大学院農学研究院



## **P2-D-6**

### **Biological effects of a dysfunctional CYP1A/AHR2 feedback loop in developing zebrafish**

○ Akira Kubota<sup>1</sup>, Alicia Timme-Laragy<sup>2</sup>, Maria Jönsson<sup>3</sup>, Mark E. Hahn<sup>2</sup>, John J. Stegeman<sup>2</sup>, Emma Wincent<sup>4</sup>

<sup>1</sup> Diagnostic Center for Animal Health and Food Safety, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Japan, <sup>2</sup> Biology Department, Woods Hole Oceanographic Institution, Woods Hole, MA, USA,

<sup>3</sup> Department of Environmental Toxicology, Uppsala University, Uppsala, Sweden, <sup>4</sup> Institute of Environmental Medicine, Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden

## **P2-D-7**

### **仔マウスにビスフェノールA暴露が誘起する低活動性症状の原因遺伝子探索**

○杉山 真季子<sup>1</sup>, 斎藤 辰弥<sup>1</sup>, 亀田 朋典<sup>1</sup>, 松山 祐昂<sup>1</sup>, 劉 曉輝<sup>1</sup>, 松島 綾美<sup>1</sup>, 下東 美樹<sup>2</sup>, 下東 康幸<sup>3</sup>

<sup>1</sup>九州大学・院理・化学・構造機能生化学, <sup>2</sup>福岡大学・理・地球圏科学科・生物学分野, <sup>3</sup>九州大学・リスクサイエンス プロジェクト研究室

## **P2-D-9**

### **Effects of prenatal exposure to bisphenol A on hepatic transcriptome at different life stages of rat offspring**

○ Thanh Hoa Nguyen<sup>1</sup>, Kimika Yamamoto<sup>1</sup>, Tetsuro Agusa<sup>1</sup>, Masashi Hirano<sup>1</sup>, Mari Ochiai<sup>1</sup>, Eun-Young Kim<sup>2</sup>, Hisato Iwata<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Center for Marine Environmental Studies, Ehime University, <sup>2</sup> Department of Life and Nanopharmaceutical Science and Department of Biology, Kyung Hee University, Korea

## P2-D-10

### 胎子期および発達期におけるネオニコチノイド系農薬曝露がドーパミン神経系および行動に及ぼす影響

○米田 直起<sup>1</sup>, 平野 哲史<sup>1</sup>, 柳井 翔吾<sup>1</sup>, 高田 匡<sup>1</sup>, 岩本 遥<sup>1</sup>, 表原 拓也<sup>1</sup>, 片田 裕亮<sup>2</sup>, 万谷 洋平<sup>2</sup>, 横山 俊史<sup>1</sup>, 北川 浩<sup>2</sup>, 星 信彦<sup>1</sup>

神戸大学大学院農学研究科応用動物学講座, <sup>1</sup> 分子形態学分野, <sup>2</sup> 組織生理学分野

## P2-D-11

### ネオニコチノイド系農薬ジノテフラン曝露はうつ様行動を引き起こすか？

○高田 匡<sup>1</sup>, 平野 哲史<sup>1</sup>, 柳井 翔吾<sup>1</sup>, 米田 直起<sup>1</sup>, 岩本 遥<sup>1</sup>, 表原 拓也<sup>1</sup>, 万谷 洋平<sup>2</sup>, 横山 俊史<sup>1</sup>, 北川 浩<sup>2</sup>, 星 信彦<sup>1</sup>

神戸大学大学院 農学研究科 応用動物学講座, <sup>1</sup> 分子形態学分野, <sup>2</sup> 組織生理学分野

## P1-D-12

### Acetamiprid as Neonicotinoid Pesticide Accumulates in Different Amounts in Murine Brain Regions

Hayato Terayama<sup>1</sup>, Hitoshi Endo<sup>2</sup>, Koichi Matsumoto<sup>1,3</sup>, Mai Umezu<sup>1,3</sup>, Teruhisa Kanazawa<sup>1</sup>, Yasuhiro Fujino<sup>3</sup>, Masayuki Tatemichi<sup>2</sup> and Kou Sakabe<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Department of Anatomy, Division of Basic Medicine, Tokai University School of Medicine, <sup>2</sup> Department of Community Health, Tokai University School of Medicine, <sup>3</sup> Department of Human Development, Tokai University School of Humanities and Culture

## PE：人への影響・エコチル

### P2-E-1

#### 生後1ヶ月時母乳から推定されるPOPs摂取量の評価 ～東北コホート調査から～

○岩井 美幸<sup>1</sup>, 龍田 希<sup>2</sup>, 中山 祥嗣<sup>1</sup>, 仲井 邦彦<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 国立環境研究所環境リスク・健康研究センター, <sup>2</sup> 東北大学大学院医学系研究科発達環境医学